

大学開放事業における親子化石掘り教室の実践 —夏休みの親と子の学び—

○三次徳二^A, 岡田正彦^B

MITSUGI Tokuji, OKADA Masahiko

大分大学教育福祉科学部^A, 大分大学高等教育開発センター^B

【キーワード】親子学習, 地層観察, 生涯学習, 大学開放

1 はじめに

近年, 大学が地域に果たす役割の1つとして, 地域住民に対して大学の開放を行い, 生涯学習の機会を提供することが挙げられている。大分大学も, 公開講座や公開授業などの学習機会を提供しており, その1つとして親子で化石掘りを体験する公開講座「身近な大分の化石収集～化石が出る理由から、化石掘り、標本づくりまで～」(通称: 親子化石掘り教室)を行っている。この講座は, 参加希望者の多い公開講座の1つであり, 2008年からの3年間で親子あわせて300名ほどが参加している。

本発表では, 親子化石掘り教室の3年間の実践と, 参加した親と子がどのように学んでいるか分析した結果を報告する。

2 親子化石掘り教室の実践

親子化石掘り教室は2日の日程で実施するが, 1日目は2時間程度で, 大分県で産出する化石の概要や, 化石ができる理由, 化石採集の注意事項などを教室で説明する。2日目は大学に集合し, 大学借り上げのバスで大分県豊後大野市の露頭まで移動して化石掘り体験を行う。その後, 化石を標本にする作業を行い, 化石に関する内容を一通り学ぶ。基本的に親子は一緒に行動し, 露頭では親は子どもの安全に配慮してもらう。化石掘りを行う露頭は採石場であり, 白亜系の大野川層群が露出している。ここから産出する化石は, イノセラムス類などの浅海性の二枚貝, アンモナイト類, ウニ類と様々な生痕である。なお, 野田・佐藤(2004)において, 地質学的な位置づけが紹介されている¹⁾。

3 結果

(1) 受講者アンケートの結果

この親子化石掘り教室を, 2008年からの3年間に受講した親と子にアンケートを依頼し, 講座に対する意識を探った。講師の話, 化石掘り体験, 親子交流, スタッフ対応の4点についての設問について, ほとんどが「とてもよかった」「まあよかった」と肯定的な回答であった。詳細を見てみると, 子については, 化石掘り体験に強い肯定の回答をしたものが一番多かったが, 親については講師の話に対して強い肯定の回答をしたものが一番多かった²⁾。親子で興味・関心の所在が異なっており, 興味深い結果となった。

(2) 講座に参加する親と子の観察

化石掘り体験と, 標本を作成する作業において, 親子が学ぶ姿について観察を行った。特に化石掘り体験の時には, 主に子どもが積極的に行う, 親と子の両方が積極的に行う, 主に親が積極的に行うという3つの行動パターンが見られた。いずれの行動パターンでも, 親とこの間で化石に対する学びが生じており, 親への聞き取りの結果とあわせて分析を行った。

参考文献

- 1) 野田雅之・佐藤裕一郎(2004) 竹田・緒方地方における上部白亜系大野川層群, 大分地質学会誌, No. 10, pp. 75-91.
- 2) 三次徳二(2010) 親子化石掘り教室の取り組みと受講者の意識—大分大学公開講座「身近な大分の化石収集」の実践を通して—, 大分大学高等教育開発センター紀要, No. 2, pp. 31-40.

一般研究発表 第一日目
プログラム

一般研究発表 第二日目
記念講演

シンポジウム
ポスター発表

ワークショップ
課題研究発表